

第49回 京の冬の旅

非公開文化財特別公開

建仁寺 靈源院

平成27年1月10日(土)～3月18日(水)

受付時間

午前10時～午後4時(受付終了)

公益社団法人京都市観光協会



けんにんじ れいげんいん 建仁寺 靈源院

「五山文学」の最高峰とされた建仁寺の塔頭寺院。南北朝時代の肖像彫刻の傑作の一つ「中巖円月坐像」(重文)は、玉眼を嵌めこんだ表情が見事な高僧の木像である。その胎内仏「毘沙門天立像」は、鎌倉時代の慶派仏師が手がけたもので、左手に掲げた水晶の中に伝教大師最澄が持ち帰ったという仏舍利が納められている。足利七代將軍義勝10歳の時の作という墨画「達磨図」など寺宝のほか、四畳半の茶席「也足軒」や枯山水庭園「甘露庭」なども特別公開される。

【拝観についてのお願い】

1. 拝観・写真撮影は係員の指示に従ってください。
2. 文化財には手や荷物がふれないようにお気をつけください。
3. 飲食・喫煙は禁止されています。
4. 定められた拝観時間以外は入場できません。
5. 本券で1名様に限り、拝観いただけます。



けんにんじ れいげんいん 「京の冬の旅」非公開文化財特別公開 建仁寺 靈源院

◆靈源院の歴史

応永年間(1394～1428)、龍山徳見和尚を勧請開山として、その弟子・一庵一麟が創建した建仁寺の塔頭寺院。鎌倉末期～室町時代にかけて禅宗寺院で栄えた漢文学「五山文学」の最高峰の寺院の一つとされた。「建仁寺の学問面」の中核を担い、五山派の代表的学僧を多く輩出した。

◆靈源院のみどころ

五山文学を代表する高僧の木像「中巖円月坐像」(重文)は、玉眼を嵌めこんだ表情が見事で、南北朝時代の肖像彫刻の傑作の一つ。平成8年の修理の際にその胎内から発見された「毘沙門天立像」は、鎌倉時代の慶派仏師が手がけたもので、衣の表現など細部まで丁寧な細工が施され、左手に掲げた水晶の中には伝教大師最澄が持ち帰ったという仏舍利が納められている。

そのほか、足利七代將軍義勝10歳の時の墨画「達磨図」や、水墨淡彩で描かれた「繩衣文殊像」、「柳澤元政夫妻像」など多くの寺宝が伝えられている。

◆茶席と庭

方丈内ににじり口がある四畳半の「也足軒」と、壁に大きな花頭窓をもつ「妙喜庵」の二つの茶席を備えている。また、方丈の南と西には、甘茶を植えた枯山水庭園「甘露庭」がある。

